

2026年度 入試問題分析シート

北海道大学

前期日程

科目

日本史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

- ① 昨年度同様、本年度も大問4題で構成された。
- ② 論述問題では、総字数はやや減少したものの、どこまで書けばよいのか迷う設問が数問含まれた。記述問題では、難解な漢字の書き取りも求められたが、基本事項を取り上げた設問が中心であり、確実な得点をめざしたい。(2022年:580字+8行→2023年:575字+1行→2024年:580字+1行→2025年:635字→2026年:590字+1行)

〈特記事項・トピックス〉

- ① 1では、Aがリード文、Bが比較的有名な史料の引用で、古代史が問われた。
- ② 2では、中世史に関するリード文A・Bが出題され、一部の設問で未見史料が引用された。
- ③ 3では、引用した史料に沿って、江戸時代初頭から幕末期までが出題された。
- ④ 4では、史料が引用され、大正時代を中心とする近代史が問われた。本年度は、戦後史からの出題はみられなかった。
- ⑤ 論述問題では、例年600字前後が出題されているが、何を書けばよいのかがわかりにくい設問が数問は含まれる。どの大問から解いていくかをよく考えて取り組む必要がある。本年度の場合は、1と3に時間がとられただろう。
- ⑥ 2021～23年度に、少数とはいえ出題されていた選択形式の問題が、本年度は1問出題された。

〈合格への学習対策〉

- ① 記述問題の多くは基本事項であるが、細かな内容に関わる用語が出題されることがある。難解な漢字の記述が求められることもあるので、手を動かしてしっかり“書く”練習を積むことが重要である。しかし、合否のカギを握るのは、やはり論述問題である。本校の演習授業や講習などを活用して“書く”能力を養ってほしい。また、本校が実施している北大実戦模試は、実際の入試と同形式で頻出事項が出題されるので、北大受験生には必須の模試である。1の間7(2)の論述問題および3の間2(5)は、本年度の北大実戦模試で出題された内容と同じであった。なお、北大実戦模試では、1の「意見封事十二箇条」も引用されており、4の間5(1)で問われた大正政変もテーマとして取り上げられていた。
- ② すべての時代・分野から出題されている。なかでも、蝦夷地・北海道史や琉球・沖縄史は頻出テーマである。対外関係史は相変わらず頻出し、受験生が苦手とする文化史からの出題も多く、いずれも丁寧に学習しておくことが必要である。時事的な内容が出題されることもあるので、日常的に関心を持って学習することが大切。
- ③ 史料対策は不可欠。市販の史料集を使用しつつ、他大学の過去問も利用するなどして未見史料の読解に慣れておきたい。
- ④ 歴史総合の範囲から出題されたと考えられる設問が複数みられた。今後は日本史探究と合わせて対策が必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	選択・記述・論述 170字	古墳文化の展開／三善清行の「意見封事十二箇条」を用いた古代の問題	問1のイは、「纏」の記述がやや細かい。問2は、纏向遺跡にもち込まれた土器がどのような意味をもっていたのかわからないと、解答は相当難しいだろう。問6・問7は、いずれもオーソドックスな論述問題。	標準
2	記述・論述 90字+1行	中世の文化を中心とする問題／鎌倉時代後半の政治史	問3(1)は、「裔」の記述が難。問8(2)は、『梅松論』がどのような性格をもつ歴史書であったかを念頭においた上で、史料の読み取りを行うことが要求された、日本史探究らしい問題である。	標準
3	記述・論述 185字	ペリー来航の史料を用いた江戸時代の政治・外交史	問1は、歴史総合をしっかり学習していれば、より解きやすいであろう。問4(2)は、那覇でなく首里を答えられたらどうか。問5は、教科書で学んだ知識に即してまとめればよいのだが、設問文の題意に合う解答を作ろうとして迷った受験生もいたのではないかな。	標準
4	記述・論述 145字	明治時代後期から大正時代にかけての政治・外交・経済史	問1・問5(2)は未見史料なので、史料通りの用語でなくても加点されるものとして解答例を作成した。問3は歴史総合からの出題と思われるが、どの程度詳しく書くか、判断が難しかったかもしれない。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。